

「隔世の感があります」と目を細めるのは、前教育長の榊原信也さん。平成18年度、まともに機能する図書館が無いことに危機感を感じた教育委員会が一念発起、委員長の田口耕さんが主導して鳥取県会見町（現在は南部町）へ図書館視察に赴いたことがきっかけで、海士町の図書環境は充実化の道を歩み始めました。

島内あちこち、 図書館がつながる！

19年度からは「島まるごと図書館構想」がスタート。同年度、司書としてスタッフになった磯谷奈緒子さんによると、当時の中央図書館は本棚2列だけの散々な状況でしたが、「まず改善を目指したのは学校の図書室。中央の分館ととらえて足繁く通い、読書環境を整えました。学校との密な連携は、海士だからこそ出来たのだと思います」。

【スタッフの皆さん】



磯谷さん



川口さん



青山さん



古川さん



篠原さん

学校を中心に、保育園、キンニヤモニヤセンターや公民館、福祉施設など、島内各地の図書スペース（分館）をどんどん増やし、分館へは隔月『本の宅配便』で本を届け、7つある返却ポストから本を回収。子どもからお年寄りまで気軽に本の貸し出しが出来る仕組みが徐々に出来上がっていきました。そんな折りにタイミンが良く国の予算がつき、町は新しい中央図書館の建設に着工。そして平成22年10月、広さ200平方メートル、蔵書収容能力2万冊の立派な「拠点」が開館しました。

島民どうし、 図書館でつながる！

開館以来、本来の図書館機能に加えて活用の幅が広がり、おはなし会やナイトライブラリ、コンサートに映画上映会といったイベントが増え、利用が少なかった中央図書館は島民が集える場所に大変身。キッズルームやカフェコーナーもあり、若いママたちにも憩いの場として人気です。

島外とも、 想いがつながる！

「離島の文化活動拠点をもちと良くしたい」という想いを島外にも届けられたら、サポートが得られるかも。それを可能にしたのが、クラウドファンディングです。取組みをインターネットで提案して活動資金を集める手法で、いわゆるネット募金。中央図書館は昨年、蔵書充実のため、これを利用しました。

寄付額に応じて特産品などを贈ることにし、想いを訴えて昨年10月末に募集したところ、多くの共感とともに募金の申し出が続出。93人（うち78人は県外者）から124万円が集まり、3000冊以上もの本が寄贈されました。

「協力してくれる人が島外にもこんなにいるんだと実感できて嬉しかったです。蔵書も増えたので、収容能力の増強が今後の課題。あとは、地元のスタッフが増えたらバランスが良い。島前高卒業生で司書過程を学んでいる子もいるそうなので、いつかUターンしてくれたら最高ですね。地元若い世代にも想いをつなげたい」（磯谷さん）

中央図書館館長でもある佃稔教育長は、「保育園の玄関口に図書コーナーができたことの意義は大きい。朝夕に訪れるお母さん方が本を借りていくようになり、幼少期からの家読（うちどく。家庭での読書時間の共有）につながっている」と語っています。中央図書館を核とするつながりは、島民の皆さんの身近に本がある環境を実現しただけではなく、本を介した人どうしの交流もたくさん生み出しています。

「個人が人間性を高める手段として、図書館サービスの充実が離島でも都会に勝てる一要素です」（佃教育長）。

図書館は、島のまちづくりの底力を蓄える場所の一つと言えます。

告知

★ 今年の図書館フェスティバル
12/6(土)開催。来てね！ ★

席が好き！飲み物OKなもの良いですね。

ひとりで過ごせる
ぜいたくな時間は
ここだけ！

奥田美奈子さん

読書の時間

的場陽子さん



海士町にこの図書館あり！

海士町中央図書館

Library of the Year 優秀賞受賞！

10月の産業文化祭でも多くの来館者にぎわった海士町中央図書館。田園風景が広がる大きな窓がトレードマークで、「館内が明るくて心地よい」「木造で落ち着くと絶賛するファンも多いこの小さな図書館が、いま全国的に注目されていることをご存知ですか？

11月7日、これからの日本の公共図書館のあり方を示す先進的な機関に授与される賞「Library of the Year(ライブラリー・オブ・ザ・イヤール)2014」(NPO法人知的資源イニシアティブ主催)の公開最終選考会がパシフィコ横浜で行われ(※)、プレゼンテーションと審査員投票の結果、海士町中央図書館が「優秀賞」に選ばれました。



菱浦港キンニャモセンターの分館

高い評価を受けたポイントとしては、島内12ヶ所の図書スペースをつないで利用を促す「島まるごと図書館構想」を基盤に、クラウドファンディングという新しい手法(※次項を参照)を使

って全国から支援金を獲得し、蔵書の充実に成功したことなどが挙げられます。

なお、中央図書館は昨年も「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受けており、過疎の町の図書館振興の先駆的モデルとして広く知られるようになりました。視察件数も増加の一途で、平成22年頃までは年に多くて2〜3件だったものが、平成24年以降は年間20件以上もの視察団体が全国各地から来館しています。



菱浦公民館の分館

「ハ」の音

いろんな場所で返却できるのが便利！雑誌を借りられることも嬉しい。

山代 森さん

(※)最終選考会は第16回図書館総合展(11月5日〜7日)の一環として実施されました